

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501008		
法人名	天理教本輪西分教会		
事業所名	グループホームタンポポ(どんぐり)		
所在地	室蘭市石川町202番地1		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年7月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173501008-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173501008-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年6月24日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は常に明るく前向きにケアに取り組み、利用者様と共に楽しみ、喜びを共有できるよう支援させて頂く。川や緑に囲まれた郊外地区に設置された環境を活かし、四季折々の風景を楽しみ、行事にも取り入れながら、利用者様が豊かな感受性を持ち続けて日常生活を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。増築したウッドデッキに寄ってくる様々な野鳥やリスを眺めたり、暖かい日は戸外でのレクリエーションも楽しめるよう工夫している。隣家との距離があり、いざという時の緊急対応に協力体制が必要なことから、町内会の行事への参加や地域の方にも、様々な行事に関わって頂きながら共存し開放された施設作りを目標に取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目を迎える「グループホームたんぽぽ」は室蘭市で一番最初にできた認知症対応型生活介護事業所であり、運営の方針を基本理念と運営理念に分かりやすく標榜し、法人本部と職員が一体となりその指針に基づく介護支援を熱心に提供し続けている事業所である。「家庭的な環境の中で持てる力を発揮し、自立した生活を営む事ができる」の運営方針に則ったケアを実践している。本人の希望や力に応じてお金を所持したり使う事の支援では、職員と一緒に街に出て自分のお財布からお金を出してショッピングを楽しんだり、事業所に居ながら気軽に買い物ができるバンや物品の移動販売車の定期来所もあり、社会性の維持や満足感に繋げている。周辺の豊かな自然環境は日常的な外出支援に活かされ、池の鯉への餌やりや、蕎麦やあずき菜採り、川の流れる音を聞きながらの散歩、野草摘みの散策など、本人の行きたいときに何でも職員が連れ添っている。利用者と地域のつき合いでは様々なボランティアが訪れており、ハーブ演奏やコーラス、書道、絵手紙、日舞など多彩である。また、事業所夏祭りの参加者は150人規模で町内会や法人関係者の真心こもった応援の下、盛大に開催される恒例行事となり、よさこいチームに来てもらうなど利用者と集う方々のビッグイベントとなっている。適切な医療を受けられる、また重度化や終末期に向けた支援では、協力医療機関と事業所が定期的にカンファレンスを実施している事も特徴である。運営推進会議では家族向けのターミナルケア講習会開催の提案があり、意見を運営に反映させて計画が進められている。職員は利用者本人の居心地の良い環境を丁寧に作り上げ、変化に応じて見直しを行いながら介護し、利用者が自ら動ける場面を沢山作る、一つひとつの場面で本人が輝ける、満足できることを心がけるなど、豊かで安心できる暮らしを支援している事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域の一員として様々な場面で楽しんで生活できるよう努める。また、理念を施設内に掲示したり、日々のミーティング等で、職員の意識向上と実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ基本理念と法人本部が掲げる運営理念を標榜している。職員は利用者の立場になって考えるケアの提供を心掛けている。迷ったり行き詰った時には理念に立ち戻るなどの意識も高く、理念の共有や実践が事業所全体のものとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会の加入、町内活動や施設行事の参加や地域ボランティアの受け入れまた、訪問などにより交流の機会をやり取りを増やしている。	町内会の総会や桜樹会(高齢者の会)、お祭りに参加したり、認知症講演会に講師として協力している。事業所夏祭りや運営推進会議に町内会の協力や参加が得られている。傾聴、コーラス、日舞などのボランティアも多数訪れており、地域と共に利用者の豊かな暮らしを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会議や行事に参加し、認知症の勉強会を開催し地域の方に理解していただけるよう対策を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会・包括支援センター・自治会長・民生委員に呼びかけ、管理者・職員で構成し、利用者様の状況報告等や支援要望や各々が抱える悩みなどを話し合い、意見を頂き役立てている。	2ヶ月に一度の定期開催に尽力している。ターミナルケアについての講習会開催の要望や、町内会婦人部と協働し、利用者が地域で活動できる機会や場面づくりについて協議されている。会議案内、議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各月の運営推進会議等で、情報交換を行ったり、市の窓口にも常に問い合わせ連絡を行っている。	制度上の案件や不明な点がある場合には、施設長が直接市の窓口に出向き、意見を仰いだり指導を受けている。担当者の協力を得て、利用者の他市への移行支援を円滑に進めるなど、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	郊外地のため夜間時は、施錠して危険回避に繋がっているが、日中は、常に開放している。また、研修などで職員に周知し、状況によっては近隣住民に協力を呼びかけている。	身体拘束に係るマニュアルを整備し、内部研修で学びを深めている。利用者本人とコミュニケーションをしないことも拘束であることを徹底したり、言葉の中に優しさや温かさがあると相手に伝わり、より適切なケアになることを確認している。職員は、利用者の考えている事や想いを推察し、不安や混乱等の要因を取り除く支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部・内部の研修やミーティング等で常に学びながら、対策マニュアルも備え、日々の支援に向かう姿勢作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している方を事例に、更に理解できるように会議や内部研修などで話し合ったり、家族の方にも説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書や口頭等で説明を行っている。また、契約や制度の改正時は、事前に十分な理解が得られるよう家族会などで説明を行い改善を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ミーティング・研修以外にも、家族からの要望・意見が出た場合は、速やかに話し合い、良質なケアに結びつこう検討を行っている。	利用者から散歩や入浴、就寝時の対応についてなど、沢山の意見や意向が出されており、随時利用者に心地よいと感じてもらえるようにしている。家族からも訪問の際や電話、メール、運営推進会議等で率直な要望や意見も出されており、その都度、個別または全体で検討しながら対応を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議やユニット会議で、意見や要望を聞き対応している。	「あなたが思う事や提供したい援助など」と題したシートを職員に書いてもらい、口頭で伝えきれない内容を文章化して、意見を聞く機会を作っている。施設長は、職員自身が抱えているケア像を更に良い方向に展開したり、ケアプランにも繋げていきたいと考えており、向上心を持って働くための新たな取り組みに着手している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に管理者・リーダー・職員とコミュニケーションを図り、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者を軸に、内外の研修の年間計画を立て、人材育成を進めている。また、自発的に様々な交流会に顔を出し、職員のサポートケアに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、研修等への参加や市内グループホーム連絡会により横の繋がりを保ち、訪問等により勉強に繋げている。また、リーダーの勤務状況に余力がある場合は、他ホームとの相互関係構築に向けてもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、幾度か本人と面談させていただき、本人の状況を見極め、本人・家族の要望を受入れるようインタビューをしっかりと行いアセスメントに反映していくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の構成・事情などを把握し相談内容に耳を傾け、家族の要望に近いケアを行っているようご家族との関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談や見学、情報提供などから利用者ご本人の背景に合わせ必要なケアの提供に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持つ全ての能力を尊重し、職員と利用者のお互いが助け合って共同生活が楽しんでいけることを生活場面で取り入れながら、支援するように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の方と連絡を取り合い、様々な不安やお願いなどの相談に協力体制で臨むように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何度も利用者様に会いに来て頂けるよう、行事の参加案内に努めたり運営推進会議などの参加などでも頻回な訪問に際してのお願いを発信している。	以前住んでいた自宅の近所の方の訪問がある。お茶を出してゆっくりと話ができるようにしたり、相互の関係性が継続できるよう雰囲気作りをしている。利用開始前から通っている美容院に同行し、希望する染髪なども美容院の協力を得て、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況・状態を考慮しながら、良い人間関係を取り組めるよう、常にミーティング等で話し合い、職員間で支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去については、長く継続的に関わることはないが、必要な場合は、ニーズに合わせ、相談・支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人の状態や意向に沿った暮らし方を本意に考えたケアになるよう慎重に対応している。	利用者の暮らし方の意向や願いをその都度聞いたり、受け入れる姿勢で対応し、利用者とのコミュニケーションや観察により、想いの把握に努めている。本人の変化にあっては、「ひもときシート」を活用して本意となる支援に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの利用者様の生活スタイルと新たな日常生活を比較し十分なアセスメントにより本人らしい生活が継続できるよう環境づくりに配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が安心して思い思いに一日を過ごして頂けるよう最善ケアを取り組むよう配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひも解きシートなどの活用やケアカンファレンスでの職員の意見を取り入れ、介護計画を作成し、定期的・臨時的にケアに反映させていくよう努めている。	本人の生活歴を活かした内容や日常の暮らしで新たに発見した事柄を蓄積し、自立支援に結び付けるプランを作成している。「私ができること・できないこと」シートを利用者担当職員が記入したり、サービス担当者会議にユニット全職員が参加をしている。計画の評価についても家族に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化に応じた介護記録とセンター方式、ひも解きシートを活用しケアカンファレンスなどにより情報共有を行い、プラン見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中で、利用者様の持つ能力に応じた役割や生きがいを自分で選択し実践できるため、個人のやりがいをサポートした良質なケアを行うよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問ボランティアや地域の祭典への参加など、必要に応じて対応している。また、社会資源を活用した新たなボランティアとの構築により刺激の変化を支援させていただく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療と訪問看護、また、遠方へのかかりつけ医への送迎など、万全な医療連携に体制が図られている。サポートの対応を行うためにも、医療機関においては、市外への受診送迎にも努めている。	協力医療機関との連携に力を注いでいる。往診、通院受診、訪問看護のみならず、医療関係者が利用者カンファレンス(ターミナルケア)に参加したり、看護師による事業所一日研修を実施するなど、適切な医療を受ける支援体制を強化している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関との医療連携体制が図られているため、24時間の緊急対応が可能で、利用者様に異常がみられたら、速やかに支援ができる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行う	入院の際は、定期的に様子把握のために訪問し、状況を確認し、職員にも情報を提供し周知している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設のターミナルケアマニュアルに則って、ご家族と医療連携機関と十分なカンファレンスを行いながら終末期ケアの取り組みに対応している。	重度生活支援に関する方針を重要事項説明書に明示し、利用契約時に同意書を交わしている。ターミナルケアに関する理念について等、5項目にわたり指針を明記している。看取り支援前後に医療関係者とカンファレンスを実施している。ターミナルケア講習会を家族参加で開催する計画が進められている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルや連携先の医療機関との毎月の内部研修やミーティングにて十分な対応ができるよう学び確認している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、地域住民の協力も加え、定期的な避難訓練や安全確保に努めている。	年に2回、定期的に火災の避難訓練を昼夜想定で実施し、本年4月には、早朝(夜勤者と早番者の2名体制)での火災避難訓練を実施している。住民の参加協力があり、協力者の役割は避難者の受け入れをお願いしている。災害備蓄品の確保、救急救命訓練受講など、対策を進めている。	火災以外の想定される災害(地震や停電等)のシミュレーション等についても今後、検討する意向を示している。利用者が様々な場所に居する場合(浴室・トイレ・居室・ウッドデッキ等)を想定した避難訓練の実施等、更なる災害対策の強化に期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの守秘義務については、研修やミーティングで職員一人ひとりが十分理解することで徹底したプライバシー確保に努めている。	基本理念に利用者の人格の尊重を謳い、尊厳ある姿を大切に支援や接遇に努めている。言葉の内容や語調は、本人の居心地の良いものとなるよう心掛けている。個人記録類は、他者の目に入らない場所で管理・保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ADL低下や認知症の重度化により、自分の要望などを表現するのが難しくなっているため、精神面に配慮しながらその人らしく生活できるよう対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の利用者様の体調や利用様の発想に合わせて、事前に職員が計画したレクリエーションなどを活用し、強要することなく共に楽しく過ごせる支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや個性を活かし、行事の際には、化粧や衣服の選択をし、豊かな気持ちで過ごして頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じて頂けるよう、旬の食べ物を味わって頂いたり、美味しく食べて頂くためメニューを工夫している。 一人ひとりの能力に合わせ、手伝って頂いている。	献立は職員が1ヶ月毎に考案し、定期的に改善するなど嗜好を反映させた内容である。畑、プランターで収穫したものや山菜が食卓に上ったり、ウッドデッキで食事を味わう事もある。ラーメン、回転寿司の外食や焼き芋、焼き肉、行事食等、多彩な食を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量を記録することで、身体状況に応じて過不足などに加減を行い、変化に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常的には食後必ず洗浄を行っている。職員の内外の研修等で、口腔ケアを学び、知識を深め、安全なケアが行えるよう取り組んでいる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の個々の習慣の把握や、排便コントロールを日々行い、快い排泄習慣に繋がるよう研修を含めて学習を重ね支援している。	本人の排泄のリズムを見つけ出し、心理的不安を軽減しながら、トイレでの排泄や布パンツへの移行に努めている。排便に課題がある場合は医師と相談したり、トイレの場所を失念するケースでは、声かけや誘導方法等を検討するなど、個々の課題に対して最善策を見出しながら支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬品だけに依存するのではなく、食事メニューやおやつなどで、食物繊維を多く取り入れ、利用者様においしく食べていただきながら予防に繋げている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のADLに合わせ、好みの入浴スタイルを尊重し、楽しく入浴できる工夫を行い実施している。	入浴は午後からの時間帯で1日3名以内とし、利用者にゆったりとした入浴を楽しんでもらえるようにしている。同性介助の希望に応じたり、脱衣所、浴室の保温、会話など、一人ひとりの快適性に努める介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の変化や状況に合わせて、職員で協議し意見を反映させ対応している。また、快眠に向け、ご家族とも相談し安心できる環境づくりも行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬剤情報を詳細にまとめた物をユニットにも備え、職員が誤飲させないよう周知徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意欲増進のため役割分担(食事準備や、片付け・掃除)や嗜好品の提供と楽しみのために移動販売バスの買い物支援を行い、生活のハリになる取り組みをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の身体状況に配慮し、周辺の散歩や衣類、嗜好品の買い物、近隣のドライブ、利用者様同士で車椅子を押しながらの散歩など、積極的に楽し気持ちは大切に支援を行っている。	周辺の自然環境を活かした散歩は利用者に人気があり、一日に複数回楽しみたい意向にも対応している。果実狩りやお花見、道の駅ツアー等の行事での外出やお店に出かけての買い物支援、移動販売車による買い物の態勢も整えている。満足感や充実感を大切に、意欲や自立を促す外出支援となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知低下が著しい方を除き、希望者の方のおこづかい管理をし、移動販売バスなど有効活用し、日常的に買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の意志により、いつでも使用できる。手紙も支援が必要な場合は代筆などで対応している。年賀状や暑中見舞いの絵葉書などを作成し、家族へ発送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりを意識し、季節感のある装飾品や花を飾り、楽しんで頂いている。ADL低下され自室にいる時間の多い方にはご本人の好きな音楽と一緒に聴いていただき孤立感を減少している。	自然の恵みを存分に活かす環境づくりを行い、周辺環境と調和した造りである。共用空間は広く明るい造りで、大きな窓から四季折々の景色が居ながらにして眺められたり、ウッドデッキ、キッチン、廊下、中庭がユニット間で繋がり開放感がある。玄関に2ヶ所の腰掛けるスペースがあり、手すりは設置場所に工夫がされている。利用者の状態等に応じて活用できるセミパブリックスペースも設けられ、他者と距離を保ちながら一緒に過ごす雰囲気を味わえる空間もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不快な音や匂いを感じないように配慮し、食事のテーブルも人間関係に配慮し、配置を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が大切にしていた家具や装飾品を居室に置き、安心した生活をして頂けるよう十分配慮している。	クローゼット、小タンス、ボックス、ベッドの家具類が設備されており、安心して寛げる、家庭的な部屋づくりを家族の協力を得ながら整えている。排泄に係る用品類はレース布をかけるなど、居室内でもプライバシーを重視する支援態勢が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ安心して生活できるように、必要に応じて居室のレイアウトも検討し、個人の能力に合ったケアができるよう配慮している。		